

【医療情報】リオデジャネイロ

リオ市内では6、7月の時期に特段流行している感染症等はありませんが、リオ市外に旅行される場合はコレラ、デング熱、破傷風、黄熱病、及びマラリア、フィラリア等の風土病に気をつける必要があります（各都市の医療事情をご参照ください）。飲料水は、場所によっては細菌による汚染もあること、また水の硬度も違うことから水道水は避け、ミネラルウォーターを飲用するのが一般的です。ワールドカップ開催中はリオの冬期にあたりますが、日によっては気温が30度に達する日もあるため、熱中症や脱水症状（特に乳幼児）に注意してください。予防接種について、リオ市では黄熱病対策は必要ありませんが、破傷風は多く発生しており、死亡することもあるので、破傷風、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病等の予防接種しておくことが推奨されます。（厚生労働省検疫所 FORTH：<http://www.forth.go.jp/news/2013/12101510.html>）。

体調が悪くなり、医療機関を受診する必要がある場合は、以下の情報をご参照ください。医療費は医師によって様々ですが、設備の整った私立病院では診察料は1回100～200米ドル相当かかります。

■救急電話番号：193

救急車を呼んだ場合、公立総合病院に搬送されます。治療費は無料ですが、医療設備や衛生面で不十分な場合があるので、狂犬や毒蛇に噛まれたりサソリに刺されたりしてワクチン接種を要するような場合を除いては、以下に記載する救急対応のある私立総合病院の受診をお勧めします。

■日本語の通じる医師

- ・ Dr. Tadashi Kitamura（循環器、内科）

Largo do Machado, 39, 4º andar sala 8, Catete

TEL:2205-3196（診療所）， 99986-7101（携帯）

※日本語が通じる上記医師を通じて私立総合病院に連絡してもらくと、スムーズに対応を受けられます。

■救急対応のある総合病院（英語可）

- ・ Hospital Samaritano（総合病院）

Rua Bambina, 98, Botafogo TEL:2537-9722（総合受付）， 2535-4000（救急）

- ・ Hospital Copa D'OR（総合病院）

Rua Figueireido Magalhães, 875, Copacabana TEL:2545-3600

■歯科（日本語可）

- ・ Dra. Tereza Nakauchi

【医療情報】 リオデジャネイロ

Largo do Machado, 29, sala 1109, Galeria Condor, Catete TEL:2285-5710